

平和記念日～米国にて

ニューヨーク事務所

福島第一原子力発電所事故により、核の平和利用の是非が問われる中、初めての平和記念式典が 2011 年 8 月 6 日広島で行われた。菅首相や遺族代表のほか、米国、英国、フランス、ロシアといった核保有国の代表を含む 66 カ国の代表及び欧州連合代表部の大使等、約 5 万人が参加した。国内の多くの報道が、広島市の松井市長が初の「平和宣言」で政府にエネルギー政策の見直しを求めたことや、菅首相が脱原発依存を改めて表明したことに言及した。



平和記念式典（広島市）



広島・長崎原爆記念式典（ニューヨーク）

（©週間 NY 生活）

米国においても、8 月 6 日と 8 月 9 日（長崎の平和記念日）の前後に、各地で平和関連行事が行われた。ニューヨークでは 8 月 5 日に、広島・長崎原爆祈念式典と平和の鐘セレモニーが国連教会とダグ・ハマーショルド・プラザ（いずれもマンハッタンイースト）で開催され、ニューヨーク広島県人会とばってん会（九州人の会）会長が広島・長崎両市長の平和宣言を読み上げた。また、8 月 7 日にはニューヨーク仏教会本願寺で広島長崎被爆者追悼法要が行われた。

カリフォルニア州サンディエゴでは 8 月 5 日、現地に住む被爆者の呼びかけで「平和とヒューマニティ」が行われ、被爆者や地元市長等 100 人が出席し、原爆投下時刻に併せて黙とうした。同じくカリフォルニア州バークレーでは 8 月 6 日に「第 10 回イーストベイ平和灯ろうセレモニー」が行われた。

このほか、オレゴン州ユージーンで「2011 広島・長崎原爆記念式典」（8 月 6 日）、カリフォルニア州 UCLA で「世界平和ページェント」（8 月 5 日）、ミネソタ州ロチェスターで「広島・長崎原爆記念平和を祈る集い」（8 月 9 日）、ニューヨーク州シラキュース及びテネシー州ノックスビルで灯ろう流し（いずれも 8 月 9 日）が行われた。

8月7日付けの『ニューヨークタイムズ』は「Atomic Bomb Survivors Join Opposition to Nuclear Power」と題した記事を、8月6日に行われた広島の花ろう流しの写真とともに掲載した。長崎市の二人の被爆者の福島第一原発事故後の思いや、日本政府にエネルギー政策の見直しを求めた広島市長の平和宣言について触れ、福島第一原発事故が被爆者に66年前の原爆の惨事を思い出させ、核廃絶のみならず脱原発も訴えていくことになったとしている。

今年の8月6日(東部標準時間8月5日)は、私にとって米国で迎える初めての平和記念日であった。昨年は東京で初めてその日を迎え、その日の持つ重みについて地元広島との温度差を感じたが、米国では在米日本人コミュニティを中心に、意外なほど関連行事が行われ、『ニューヨークタイムズ』や複数のネットニュースなどで取り上げられるなど、予想外の関心の高さに驚かされた。今年は、福島第一原発事故後初めて迎える平和記念日であったことから、原発の在り方についてが議論の中心であった。今年4月、被爆2世として初めて広島市長に就任した松井市長が行う平和施策が注目されるところであるが、我が国及び世界各地において核の平和利用について議論されることで、広島市の目指す核兵器廃絶及び世界恒久平和に議論が発展することを願わずにはいられない。

(牧所長補佐 広島市派遣)

